

脈々 高蔵^{スピリッツ} 魂

(創立者 市邨芳樹のことば)

「^{ゆる}恕して忘れよ」

自家の慶び事がふと口とついて出ることがある。本人にその気はなくとも、周囲には自慢としか響かない。

内々に苦悩を抱える人は、それについては語らない。身内の苦しみや喜びを分かち合えるのは、夫婦と親しかない。

心ない一言が胸に深く突き刺さり、癒えることのない傷口に沁みることもある。知らず知らずのうちに人を傷つけている自分を思え。

人情世故に通ずるの識あるを要す。

(「藪椿」 6 - 4)